進む日本の少子高齢化

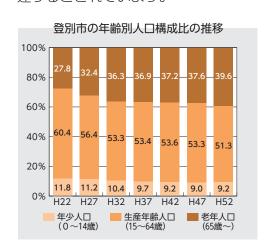
日本の年間の出生数は年々減少傾向 にあります。日本の合計特殊出生率は、 過去最低となった平成17年の1.26から 少しずつ増加しているものの、平成26 年は1.42とまだまだ少子化は続く傾向 にあり、さらに、登別市の合計特殊出 生率(※)(平成20~24年)は1.36と国 の平均を下回っています。

※合計特殊出生率…一人の女性が-

に産む子どもの平均数を示すもの 出典:平成27年人□動態統計の年間推計(厚生労働 省)、平成27年10月策定『登別市まち・ひと・しご と創生総合戦略(人口ビジョン)』

人口推計から見る 登別市のこれから

平成27年10月に策定した『登別市ま ち・ひと・しごと創生総合戦略(人口 ビジョン) 』で登別市の人口推計を見 ると、0歳~14歳の年少人口と15歳~ 64歳の生産年齢人口は年々減少。65歳 以上の老年人口は平成32年までは増加 するものの、その後は減少すると予測 されています。また、高齢化率(総人 口に占める65歳以上の割合) は将来ま すます高まり、平成52年には39.6际に 達するとされています。



環 境 形態は大きく変化しました。 しかし、 高度経済成長期以

降

家族

子

育

7

を

取

IJ

巻

<

見守られて生活することが もが祖父母の世代と離れて暮らすなど、 核家族化が進み、子どもが多くの人に 多くなったことや転勤などにより子ど 職をして、 現在は、 そのまま定住するケースが 地方から都市圏に就学や就

子育ての環境も従来とは大きく変わっ

々変化していく中で、

家族の在り方や

わたしたちを取り巻く社会環境が日

減ってきました。

代には、親が働いていても子育て経験

三世代で同居する世帯が多かった時

場が広がったことや養育費な 進み、男女問わず自己実現の などから共働き家庭が増加 どの子育てに係る経済的負担 さらに、 女性の社会進出

が弟や妹の面倒を見ることが子育ての

助となっていました。

の数が今よりも多かったので、

兄や姉

ある祖父母を頼りにでき、

兄弟姉妹

ました。 こうした子育て環境の変化により、 相談したりできる家族や友人がいな 子どもを安心して預ける場所がな 「身近に子育てを助けてくれた

囲とつながりを持ちながら子育てをす

る光景がみられました。

るおじいちゃんやおばあちゃんに子ど

いかってもらったりするなど、

悩みを打ち明けたり近所で親交のあ

地域では、先輩ママに子育て

に走り回る姿は、 すやと眠る寝顔、 子どものかわいい笑顔やすや 元気いっぱい 今も昔も変わ

らず、 安も存在しています や安らぎを与えてくれます。 そしてそこには、子育ての悩みや不 家庭やその周囲にたくさんの喜

人ひとりのライフスタイルや家族

ありません。 も少なくなっています 子育てに関わ んなの笑顔のために

の声を聞くことがあります。 い」などといった、子育て世帯 また、 声を掛け合える『ご近所さん』 地域とのつながりの希薄化に Ó 不安

よって、 このような現状は本市でも例外では

によっても異なります というものの価値観・形態が多様化 ての悩み』は家庭環境や子どもの年 ている中で、それぞれが抱える『子育

進められています。 う子どもたちをともに育む取り組みが く子育てできるよう取り組んでいます。 しくなっている今、 て世代の育児負担の軽減に努め、 な子育て支援を実施することで、 み育てやすいまちを目指し、さまざま 今号では、市や地域がどのようなこ さらに、地域でも、 子育てを家庭内だけで担うことが 市は、 まちの将来を担 子どもを産

とに取り組んでいるのか、そして、 どを通じてご紹介します。 関わるさまざまな方のインタビュー な手助けとなっているのか、 の取り組みは皆さんにとってどのよう 子育てに そ